

藝備孝義傳

高田高宮

卷四

内閣文庫		
一五八函	三四二七大號	和書類
五架	七册	

安藝云

家傳



内閣文庫		
番號	和	34276
冊數	7	(4)
函號	158	29

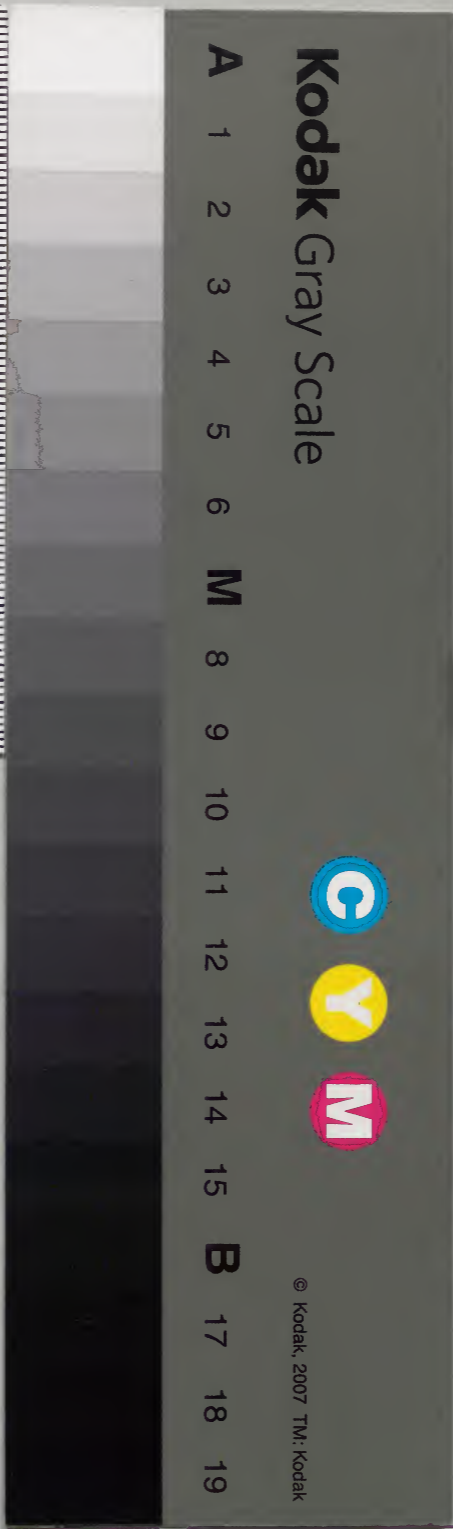
山陽道十

續編孝義録料

七十三

警

共七



南201

Faint vertical text within a rectangular border on the left page.



藝備孝義傳二編卷四

安藝國高田郡

三田村法之傳子之傳

有田村才之傳

川根村隆虎

上入江村長松

東女木村長右衛門妻之傳

安藝國高宮郡

中崎村吉郎之傳

水落村ぎん新八

下町龜村幸十郎

同村三次郎女きり

同村小三郎 同村五郎市

大林村保右衛門

猪木村小三郎同妻むら 附熱八

上中野村友四郎

福田村十花同妻里ん

上中野村若松

藝備孝義傳二編卷四

高田郡

○三田村清き保子之き保

清き保、おき保の兄弟として、母に父母を孝有り。父の半四郎といひて、心の小走とりよめのをつとむ。家きりめて貧し、兄弟ともよ、十四おの対より、これ長七郎右衛門が家よ、つうふいとまあれが、薪をいり、おをくみて、父母の勞をたすく、まじ味よきものあれば、涼風面をいさず、もふとち持ゆきて、親よ

あつこ、己のハ、おぢく、菜さいを、物ものらふ故、七しち高たかを、妻さい、
 何なにを、れ、と、て、父ちち母ははを、進すすぎ、を、い、別べつれ、あ、つ、こ、の、と、り、と、
 己おのれが、お、の、外ほか、い、ら、う、く、づ、き、い、と、よ、あ、ら、う、ず、と、あ、ひ、て、か、
 辞こと退ひせ、り、さ、く、兄あに弟いと、も、よ、仕つかを、や、あ、て、家いへを、か、つ、り、
 も、つ、も、ら、父ちち母ははを、つ、つ、よ、ま、つ、り、て、心こゝろ力ちからを、流ながし、け、る、姉あね、
 あり、て、人ひとを、嫁かし、子こも、お、や、く、て、家いへを、と、ら、う、て、甚とま、つ、
 う、り、け、れ、ど、父ちち母ははと、れ、を、ら、れ、よ、渠から、姉あねを、さ、し、て、父ちち母はは、
 も、一いっ家いへを、名な物ものあり、や、と、い、ひ、ら、う、づ、ら、し、め、さ、し、て、い、
 る、と、ら、ひ、て、己おのれが、ま、一いっき、ら、ら、し、り、の、と、あ、ら、う、て、弟いと、あ、つ、
 多おほく、

物を、あ、つ、こ、け、る、弟いの、よ、か、後あと次つぎ、い、回まわり、村むらを、て、人ひとの、家いへを、
 つぎ、妹いもうとも、人ひとを、嫁かし、たり、し、ら、う、こ、の、日ひは、一いった、ひ、の、必かならず、
 来きり、向むかひ、法はふを、術じゆつ妻さいも、夫おつとよ、も、ら、ひ、て、よ、く、舅おやぢ始はじめを、
 ら、あ、ま、す、お、姉あね、い、も、と、よ、り、を、子こを、い、い、る、ま、で、皆みなを、さ、し、
 り、あ、つ、ま、り、け、る、父ちち母はは、百ひゃく七しち十じゅう、あ、ま、り、つ、れ、ハ、小こ、
 走はしり、や、あ、ま、と、兄あに弟いの、い、ま、む、れ、と、も、き、う、ず、し、て、こ、れ、を、
 つ、と、む、つ、つ、ら、ら、う、い、も、あ、ら、う、け、且かつ、あ、け、あ、ら、け、ら、
 養生やうじやうの、い、あ、ま、も、ち、も、る、と、い、い、お、お、よ、強とて、い、い、あ、せ、
 え、せ、ざ、う、け、る、が、か、ひ、て、よ、り、遠とほ方はうま、す、ハ、風かぜ雨あめの、と、ま、

ふどの父も志らせども兄弟かとりてかけしり村の
用をどののける。寛政三年八月廿二日。お人よ米
お俵をたよまもりぬどのの俵をこたらぶるよよりて
同九年十一月廿一日。あつてひお俵下されける。

○有田村才吉

才吉係い。幼少より。柔和なる生質にて。十女をかり
より。神仏をたよとひ。家内よて。朝夕灯籠をかけ
父母は。おまると。ああい。又そのこらより。たれ
せしあるともあくお親の。おれ。ふさまを。おぬむる

こと。一日も。せこたらぶ。すてよ。人とりり。父病死
して。兄おれが。家を。つぎ。家子おやく。め一つひ
ぬるが。才吉係。これを。ぐりて。野よ。山よ。ちこらく。渠
から。あつく。法とむるよ。よりて。あつて。せこたらぶ。もの
ま。妹あり。三田村より。ハ花とり。あものを。むらして
これよ。妻あひせて。母と。どもよ。別よ。居ら。む。母兄
の志も。ま。ハ花も。よきものより。母子兄弟も。お
まごむつ。才吉係。おれよ。三度ゆきて。母の。安否を
うが。ひ。飲食。た。少く。を。問て。これを。知る。おれ。母の



孝履をつくる。母やもめと。なりし。すり。の。才。き。備。ひ。
 髪をゆい。む。よ。め。む。き。め。何れども。渠がゆい。する。が。
 快し。と。り。母。が。寺。ま。う。て。の。度。こ。と。よ。く。き。こ。ひ。ひ。
 ぎ。る。こ。と。り。才。き。備。ひ。兄。か。れ。よ。田。畠。を。と。か。ら。与。
 へ。ん。と。お。も。ひ。て。人。一。も。一。地。よ。の。ご。と。あ。ら。ば。P
 せ。と。い。せ。せ。け。る。よ。兄。の。家。こ。を。大。切。よ。と。い。れ。ば。い。い
 なる。ふ。よ。も。く。ら。一。わ。ら。ず。と。い。く。け。る。と。強。て。問。
 くれ。が。さ。ら。ば。母。が。居。ふ。よ。ち。お。き。と。い。ふ。と。り。ひ
 かり。それ。は。玉。地。甚。よ。り。し。か。ら。ん。と。い。は。兄。ハ。村。の

ことども、持もちけし、心のやど、ときかじり、これハ
一いきぢよ、農いん業ぎやうをつとめ、つばあ、きふも、年としを
経へび、よき地ちも、まじり、たゞ、本ほん家けよ、まじり、
きふをのこ、占と置てせ、つとめ、といひ、つとめ、いふ、人ひと、きく
傳つたへて、兄弟あにい、かく、こと、あら、まじり、きもの、まじりと、
ふめ、ちや、たり、ける、村民そんの、うち、ま、才さいき、あ、つひ、ひ、ひ、
感かんして、善ぜんよ、う、つり、もの、を、ける、と、る、り、寛政三年、
八月廿三日、智ち目めと、こと、を、た、ま、り、る、同九年、十一
月廿一日、米三俵、あた、ら、る、。

○川根村隆庵

隆庵ハもと、三さん次じ郡ぐん作さく木ぎ村むらの、産うれ、父ちちを、左さ仲ちゆうと
いひ、川根村へ、引ひ越こし、ま、れ、り、を、め、い、甚た敷し負おし、
かり、し、が、及および、や、ゆ、り、よ、ら、せ、り、其その身み、貧ひん朴ぼくと、
人ひとを、め、ぐ、む、こと、あ、つ、く、あ、ま、ゆ、く、こ、ろ、を、や、り、け、り、
又、上かみを、う、や、す、ひ、法ほう度どを、お、り、て、村民そんを、も、ま、じ、り、
を、し、つ、さ、し、ふ、と、い、け、れ、ハ、一、心いっしん、心こころ、服はくし、鄰となり村むら
ま、じ、も、よ、ら、つ、び、ま、じ、か、め、と、聞きえ、て、寛政四年、二月八
日、白銀一枚、た、ま、り、り、け、る、。

○上入江村長松

長松ハ老母らうぼよつゝて孝なり。家まづ一くやうひ
 又またざれば何なにがしうもとく。一月いちげつよ子こお日ひをい
 て。一日いちにちかりりよゆきつうなるよいつも軽かろくらすきより
 起たて。母ははがためよ水みづをくこ茶ちや壇だんをとりつてほいでり。
 其家そのいへの人ひといぞめてたきいつるころなり。母ははいぞめ
 やうはうがこきこころありて。長松ながまつさまよ妻つまをも
 むろ一ひとが母ははの心こころよげりぞ一ひとておぬそのうちす
 むるものあれどもとくづらずしてひるハ婦よめハ姑おばあを

たするものあるよ。母ははそれがためよいの一ひとまよる
 ことあるらうがなさまあらねといひてあつてうけひ
 うねその仕つかゆるふの家いへれ田で地ぢも。己おのれが家のいへあつり
 されハ日ひよいくたびともまなく。母ははをかりえさるれも。
 朋とも党だうがゆをむひすにかせば主まのつとめりす一ひともかく
 ことなり。母ははが痛いたみあつた時ときも。まればかたの人ひとを雇やひて。
 己おのれをかとりつとめしめらる。まもほよひゆるせ一ひととるり。
 長松ながまつがくつとめをこらしめて。かすりさる。うちよりも。
 母ははをハゆいりよ。やしきひぬ。寛政かんせい壬子にんしの五月ごご廿九にじゅうきゅう

日米三俵たまひふ。

○栗女木村長右衛門妻はまたか

たか父を若九郎といふ嫁してよく舅姑おうじおばより
甚右衛門年八十ふまぢぬ姑おばの病やまつきて是こゝたらず
かりけるをいこゝろとほくしてこれとやいふふ二俵ごんは
けかれもをふまづうととり致やせぬて人のあわれめず
いつもうらやうよとふらふ農事のうじよりりてふらふ
おさとおいふままりくたひとるくは家いへよかたりと
すこゝのるまふゆるすやいさひが姑おばの二年ごう斗とり



やして、母をさりぬ甚ちるも大病まで、後食のことに
ありしが常々餅をこのむおつらもして新糯米
をゆて餅をすめをやとおもつど時をやくして、
かこければ、さるほりし米のいまで熟せざるを、
少かりとりをよめてもみて、こまに旧穀をすべ
て、餅をどのへすめければ、それより食もすこ
遂に本復して、農業をもたするよひつれり甚ち
よめり孝じよて、こころのすまひつらやいさよお
かく長壽のきるよし人よあづら口のせのやうな語りて

よりこびけるすべしをまがはとめ、そこらへこと男
子も及びかて、糸機のことよりして田野れこぎ
まごのこころとこころをくいとまこける、子も男女六
人ありける、又よくまごをこして一家むつす、
くらしぬ寛政四年十二月をふる米三俵を賞賜
せらる。

高官郡

○中野村吉原吉備

吉原吉備のものと、山かた郡本地村の百姓武助が

子あり。父死時。中一。ま村の又ハ。養子とス。り
 一。父父母。つうて。孝あり。又ハ。ハ。がす。り。る
 農民。うて。か。り。鍛冶。を職。とす。昔。ら。き。夫。も。
 昔。その。こ。を。う。け。つ。ぎ。て。志。も。巧。も。り。昔。母。
 年。ら。り。痿。痺。を。や。も。歩。り。か。ま。を。す。二。年。の
 とも。昔。ら。き。夫。婦。一。て。と。り。あ。つ。う。ひ。ら。る。が。昔。
 母。す。の。嗚。を。や。て。日。こ。ん。つ。う。れ。ゆ。く。を。昔。ら。き。夫。
 甚。う。れ。ひ。て。こ。か。一。こ。よ。き。こ。ま。つ。を。た。づ。ひ。あ。出
 して。い。い。ま。も。あ。め。て。す。あ。け。る。よ。ふ。の。い。ま。も。

あれ。大。よ。ら。り。こ。び。又。お。ら。れ。バ。あ。り。く。が。り。こ。て。
 う。ま。ぐ。よ。カ。を。つ。こ。一。孝。ひ。け。る。が。お。ひ。あ。く。一。て。
 えて。け。れ。が。い。こ。る。げ。き。あ。り。り。養。父。も。よ。り。ひ。
 か。も。む。きた。れ。が。さ。き。て。食物。を。心。を。用。ひ。常。は。
 魚。を。す。む。魚。う。り。来。ら。ぬ。時。ハ。可。部。町。まで。買。
 も。と。む。飯。の。よ。く。志。ら。げ。野。菜。ハ。家。の。か。い。ら。ら
 又。種。て。父。の。好。め。る。もの。い。こ。づ。う。ら。こ。れ。を。つ。く。る。
 父。す。で。よ。八。十。は。餘。り。る。よ。い。と。つ。た。の。し。こ。と。す。る。
 こ。と。ろ。け。れ。が。昔。ら。き。夫。に。ひ。つ。き。て。お。き。池。を。あ。り。

見たり。田に際の小魚をとりて。びりれさせ。又度々の
 人のとらりて。金魚二つ三つ。りれれば。父これに
 悦び。朝夕。足て。たのしき。あつり。あつる。よ。百姓のふ
 として。ぬり池など。物すきかま。きこと。あつるよと
 いかものあり。昔高き。それをゆきて。人よ。たのしき。も。心
 くら。くま。い池を。つや。若。またの。くま。う。あ
 一めんも。たき。と。あひ。う。ら。ひ。あ。る。よ。村長
 此某ゆきて。足。一。は。池。の。三。尺。を。かり。あり。て。ま。り。り。よ。
 竹かきの。あり。く。き。と。して。誅。よ。老人の。あ。よ。



まうけたりと云く。おきくも物も乏り何くも
からんまどいひければ。吉原を傳よりこびて。をす
ときぬ。さて。老父より。なも雨ふる日ある。こたつを
する。み。己が家業より。用ゆる。松炭の。埋火より。消やす
ければ。別よ。よき炭を。たくして。を用とる。せり。老
人のこと。るれば。おる。う。小使することあり。夫婦。
それと。おれば。けい。衣服の。せんたく。は。ふする。
一。おどいひて。何と。ふく。あらため。きする。その。餘の
あつ。ひ。いた。らぬ。く。ま。う。吉原を。傳。農業の。え。か

あらず。紙。沽。細工。よく。う。れ。れ。ば。遠。近。の。人。日。々。よ
来り。つ。ど。ひ。或。い。酒。も。多。ひ。て。ひ。が。こと。の。ひ。か。く。ること
ると。お。れ。ど。吉。原。を。傳。や。い。ら。う。よ。う。け。て。み。も。あ。ら
そ。い。ぎ。れ。い。う。め。く。い。ひ。の。あ。り。た。る。人。も。心。と。恥。て。
あ。や。ま。り。か。こ。す。る。も。た。ほ。し。と。る。ん。吉。原。を。傳。今。い。
父。が。時。よ。い。十。倍。も。し。た。る。百。姓。と。ま。り。て。年。貢。も。と
より。す。こ。や。う。よ。上。を。た。ふ。と。む。こと。あ。つ。く。又。実。父
の。近。今。い。兄。利。三。次。家。を。つ。ぐ。を。よく。う。や。ま。す。ひ。妻。の
父。を。も。ま。す。福。ん。い。ら。う。よ。せ。り。かく。孝。友。睦。姻。の

りひあること上よきことにて寛政三年十二月六日
米五俵をとりぬ

○水落村ぎん新八

み落むらよ兄弟孝るもの五姉をぎんとよび
弟を新八といふ父はすでによそへ母一人あり
けるが七十よあまより常よやしてふりがらるる
新八かきうるる農業るれども母の食物はその
好うよあこひ口よかふいざればいくたびもとく
のうへて進むこと常るり母平生湯あとする

こととこのめりあへて志むく湯せとらへ母の
弟をあらひてあまひはすくよ病ふよつれゆきて
いひめ病あでさすつてかゝるもさす農業
いそぐりきき時といふもむひとりり必とよありて
たまることとる一ききおの母の左右よひふて
母のあせあところよ入れてあむむ新八の妻を
むらぎぎん人よゆるず母のそよあるうちの他
人をまふて心のおぎつづくあらせんとす
ころがし見ゆ人こかあをれよあめつり寛政四

年五月廿九日米五俵をたまはる。こころしきんりんと
四十。新八ハ三十七よまりぬ。

○下町^{まもまちや}村幸十郎

幸十郎ハ父^{むかし}聾^{やう}養子^{やう}として幸十郎うまれし後、ふと
ふく離縁^{りえん}せり。家をふりて貧しく。祖母^{そぼ}ハ誘^{いそ}師^しを
惣^{まへ}ち馬^{うま}が家^{いへ}よ。毎日^{まいにち}やとりれ。母も人老^{ひとぢ}ごとあどして
かすろよ。世^よをまたりけるが。渠^{みち}ハ九^こ支^しよ。まりてハ
祖母^{そぼ}がゆきし。あいつもむろひよゆき。夜^よよつれが
必^{かならず}よをひきく。いともひ海^{うみ}る。十四^{じゅうし}あやよ。まりてハ

人^{ひと}よやとをれ。ゆれがま。かろらば。祖母^{そぼ}をむりつよ。
ゆくこと。せいたらば。これよりきき。家^{いへ}ハ人^{ひと}よ。うりて。
ゆとの牛^{うし}を。かよひ。住^すみ。りし。が。祖母^{そぼ}いとこら
あらば。おもひ。ら。せ。幸十郎^{きんじゅうらう}身^みを。くづきて。またらき
いだ。家^{いへ}を。買^{かひ}て。うり。くれ。が。祖母^{そぼ}も。母^{はは}も。ふろく
収^{よろこ}ひ。ける。妹^{いもうと}も。人^{ひと}あり。病^{ひやう}刃^{やいば}まで。渡^{わた}世^{せい}の。たすけも。
えせ。ざり。くる。が。これ。を。あり。れ。こ。を。さ。る。こと。又^{また}を
れり。か。く。て。祖母^{そぼ}も。母^{はは}も。や。老^{おい}ぬ。れ。が。もと。れ。ごとく。
ま。こ。ら。き。え。づ。れ。が。幸十郎^{きんじゅうらう}は。いと。り。て。力^{ちから}を。つく。

孝義傳二編

卷四

十一



孝義傳二編

卷四

十一



人よりゆるさしといひ、我われおて田いある時ときも、かゝるす
たづみありて、されよ、あつふづうと、くふい
けれといひて、強ちかて、あつふれ、うちあつと、くふい
かゝり、かりな、あつむ、ことせ、ゆるさ、らつとも、さうたう、
いと、いひける、三さん次じ席せきも、父母ふぼよ、よく、つゝ、く、も、の、ま、
かつて、父母ふぼのため、よ、よ、き、ま、石いしの、や、く、大おほなる、を、拾ひろひ
え、て、これ、を、温ぬ石いし、して、父母ふぼの、寝いる、あ、と、よ、せ、き、
を、かん、ま、い、せ、ぎ、け、る、こ、れ、を、一、車、う、り、さ、れ、が、き、ら、ら、
孝かうの、父ちちより、う、け、つ、つ、た、る、ま、う、ご、し、幸さい十じゅう郎らうと、同

日ひよ、米こめ五ごた、さ、ら、あ、つ、て、お、め、う、よ、び、と、し、ま、
十七じゅうしち、女むすめ、る、り、ほ、ま、す、と、幸さい十じゅう郎らうと、同どう日ひよ、米こめ五ごた、ら、
下くだされ、け、る、

○下町登村小三郎 ○同村五郎市

小三郎せうざんらうの、父ちちを、長なが次じ席せきと、り、小せう三ざん郎らうの、母ははを、長なが次じ席せきと、り、
す、り、も、お、ま、さ、よ、お、ま、む、く、こ、と、る、く、夫おつと婦めと、も、よ、
農のう業ぎやうを、お、ま、げ、え、つ、れ、た、る、お、と、い、ひ、も、老らう人じんは、
つ、よ、る、こ、と、を、お、た、ら、げ、ほ、ま、い、父ちちい、り、よ、ま、り、
老らう病びやう年ねん久ひさし、く、お、ま、さ、る、を、小せう三ざん郎らうと、れ、を、お、



ももりのとてたてたすけをさしける寛政
 四年五月廿九日米三俵よりりて堂せられ同
 十年九月廿一日あまひて米五俵を下さる。

○孫本村小三郎同妻むら 附典八

小三郎の長九郎が一子あり。お親よりして孝教を
 つくせり。妻の沼田郡小沼田村侍七郎むすめあり。
 これもおやと孝するものなり。朝夕の食物夫婦
 してどこのへ何しても申す。お徳をうまるとお親
 めすめをのこひ畢るをいづれいづらりとせず。

及び母のまゝりし事ありしをいふに母の病に
 かたければ夫婦の肉一人をかきとりてかき
 して食ふ事ありしをいふに母の病に
 及び母のまゝりし事ありしをいふに母の病に
 かたければ夫婦の肉一人をかきとりてかき
 して食ふ事ありしをいふに母の病に

のせ。産上うぶを引まかりして母の病に
 及び母のまゝりし事ありしをいふに母の病に
 かたければ夫婦の肉一人をかきとりてかき
 して食ふ事ありしをいふに母の病に





父母の衣服をどのの^{いんぷく}、^{いんぷく}おつよをくりぬ主人より、
 たゞこの料^{れう}とて、日ごとよ、^{ぜい}錢をあつゝるよ。己ハ烟^{たばこ}草
 を用^{もち}ひずして、その錢をも、たぐとて、か父母よ、たて
 まつりぬ。さき年^{ねん}限^{げん}ちりて、おつよか、り父の、すぐよ
 死^しして、母よ、つうよ、つうよ、おかくい、り母の、あすまの、
 ちき^{ちき}牧^{まき}め、より、出入^{しゆり}よ、いたるまで、とひ^{うか}何^{なに}に、ぎる、こと
 るく、すぐて、母のこと、^だ糸^{いと}ふ、^す少^{すく}も、^さ省^{せう}こ、らと、る、けれ、と、
 母^{はは}甚^こよ、ら、ご、び、ぬ、^ささ、^ま年^{ねん}限^{げん}ちりて、か、り、時^{とき}主人
 より、物^{もの}あ、つ、た、る、よ、^じ己^{おのれ}が、を、こ、ら、き、い、だ、一、た、ると、

こともありける。まんぐ。毛を一つふまつると。保更よ。
 をよびても。一度も。あーきをせだ。ことよつーみ。
 やらうか。うー。よ。そりあつひぬれ。母のさ。ら。よ。
 かるひて。まんをの。よ。び。つ。ふ。まつ。ら。ー。む。よ。ま。
 の。粉。る。ど。り。かりて。その。焦。る。を。も。か。し。ら。ん。ず。て。
 い。と。ぎ。ま。り。ぬ。二。便。よ。け。が。れ。た。る。も。の。い。よ。あ。く。
 川。よ。も。ち。ゆ。き。せん。た。く。ー。て。そ。ろ。よ。近。き。あ。ら。の
 も。の。を。き。お。る。と。よ。か。れ。が。家。の。曉。よ。い。る。ま。で
 灯火を。あ。う。ー。か。の。洗。濯。よ。往。來。す。る。を。見。て。か。く

十見の。百。お。も。安。眠。せ。ず。て。介。保。す。る。こ。と。人。の
 及。び。か。こ。き。こ。と。ま。り。と。感。じ。け。る。本。よ。まん。よ。向。ひ。て
 称。誉。け。る。も。の。あ。り。し。よ。まん。こ。と。こ。と。が。あ。い。け
 家。の。こ。と。つ。ふ。ま。つ。る。た。め。よ。こ。を。来。り。ぬ。こ。と。い。か
 や。う。れ。事。つ。ふ。ま。つ。り。ぬ。も。も。ら。よ。若。勞。と。も。あ。い
 け。り。だ。と。い。ひ。け。る。菜。も。が。ず。く。進。め。ら。る。う。ち。よ。
 た。あ。と。き。品。を。も。た。つ。ひ。ぬ。て。用。ひ。し。れ。ど。い。ち。も
 あ。ら。が。れ。ぬ。母。今。よ。り。い。ら。す。り。れ。事。よ。及。ぶ。ま。ー。と。
 い。ひ。け。れ。ば。夫。婦。を。の。従。ま。し。い。我。等。何。を。た。の。こ。よ

日を送りいづきいづきもして今一度の負てありとも
 寺よ申さうでさせまらんとひてとかくしてまこと
 茶をすめりまんぐ父い中津川村の武助といひ
 一年癱をやりていとるやまければ十花母の
 側よ侍りてまんを中津川いたびくづいしき
 いつも著かまらんとそぎかりて姑のからり
 常れいごとくして一飯も父がもとまらんとまらざり
 けるに余農業のいとるき時とも人をやと
 ひてまんの姑の側をまらるるすてそが衣服の

せんたもえせざりければ兄弟ともうせめての
 いとるりとありひそそぎてあそくけるまん寛
 政五年癸丑に七月十六日夫婦よ米七たたらりま
 ちりぬ十花こと一四十三まんの廿九よるりける
 孝養とくをおめて厚ければ一十一年七月廿一
 日まこと夫婦よ米七俵づかつける。

○上中野村若松

若松の父八性まらりて妻がいとるまよりの
 子をもまらみあそりよ妻を後より病よ

少たりしう。家のまづしきこと。そふとて。その
 時若松。七女よりける。日ごと。烟草きこむ
 家よ。ゆきて。たむこの茶うらと。いふことをして。
 いさう。賃錢をぬき。近所の人よ。やとせれると
 して。親を。やういひ。ときて。母のやまひを。うれひ。と
 ちり。つゝあること。幼者の志。とて。あらば。かれが九
 女の時より。母更よ。とつひて。肺を。とちりしうば。
 若松。家よ。きて。たむこの茶を。とらへ。母が。いとう。は
 焼餅を。とて。母が。二使の。こと。まて。昼飯。とらへ。



年ごらびとりーのころかこころづふすつりぬ十二
 支の時のこころや母のためよ。神仏よ。祈禱をわけ。
 医業も。まごりりく。たづひもとめて。用ひける。効も
 まりーよ。正勢女と。いふ。くすり。効あづーと。人の
 いふ。まきこ。いふ。まも。得て。すめたく。おもひ。それと。
 それ。まも。も。む。ま。た。ま。り。ま。け。れ。ば。已。う。ま。る。も。の。を。
 質よ。い。れ。て。と。母。よ。ま。わ。り。し。け。る。よ。母。の。ま。き。こ。づ。り
 けれ。い。若。物。の。ま。ま。も。お。ま。ぬ。い。一。味。身。ま。か。か。一
 ら。れ。と。り。ひ。け。る。う。母。於。ゆ。る。ま。ご。り。け。る。を。母。の

わ。り。た。る。際。よ。ひ。そ。う。ま。と。り。か。て。錢。を。かり。近。ふ。一
 ま。う。で。い。と。の。ひ。置。て。や。ぐ。て。可。部。所。より。船。よ。の。り。
 廣。一。ま。ま。ゆ。き。て。か。の。葉。を。か。ひ。ゆ。り。て。か。く。ま。か。り
 けれ。い。母。の。志。を。か。げ。て。あ。ま。ま。ま。も。む。せ。け。る。物。を。
 父。を。う。や。ま。ひ。妹。を。あ。そ。れ。ま。ま。ひ。も。の。を。ま。ご。り。
 若。物。を。あ。り。ひ。る。こ。ら。び。を。つ。り。や。が。れ。を。補。ひ。ま
 親。の。髪。ゆ。か。こ。も。ま。ま。若。松。つ。ふ。ま。つ。り。ぬ。ま。の
 あ。そ。れ。ま。ま。こ。ら。い。い。も。お。り。う。ま。り。近。村。ま。ま。い。こ。こ。
 医。師。よ。た。の。こ。り。葉。を。送。り。米。を。あ。つ。て。賑。い。

めぐむものも。ありけるとるり。寛政十年十月廿七
日。賞^{きやう}して。米七俵。たまりりぬ。はと一。若松十四戈。
るりける。

[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]

藝備孝義傳二編卷四終

BOOK 11

